

第1回サミット 平成6年10月21日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

●第1回サミットでは、上・中・下流それぞれの自治体抱える阿武隈川に関する問題をお互いに共通理解することを目的に、源流の西郷村はじめ沿川の各市町村長らが一堂に集まり、阿武隈川との関わり、治水、利水、水質を含む河川環境保全への取り組みの現状と課題について意見交換。上・中・下流それぞれの問題が明らかにされました。そして、本サミットの重要性や、その役割・期待が各市町村長から述べられ、本サミットの基本理念となる治水、利水、河川環境保全の3つの柱とする共同声明が採択されました。

日程：基調講演／「阿武隈川と地域との関わり」……建設省東北地方建設局長 坂本 忠彦
記念講演／「緑よ水よ永遠に」……森村 桂さん
サミット／24自治体長による討議

共同
声明

- ①阿武隈川の歴史と文化を大切に 心ゆたかなまち・むらをつくろう
- ②みんなで洪水から まち・むらをまもり あぶくま川を語りあってくろう
- ③生きものたちのいのちが 喜び輝くあぶくま川の清流をとりもどそう

第2回サミット 平成7年11月24日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」

●第1回阿武隈川サミット共同声明における治水、利水、水質保全を含む河川環境保全の3つの柱を基本テーマとし、今後流域自治体が一体となって何をなすべきか、その具体的な方向性をさぐりました。その結果、「交流」を基本とする共同声明と具体的な行動計画が採択されると同時に、阿武隈川流域に暮らす約140万人共通の心のよりどころとなる愛唱歌の作成が提唱されました。なお、阿武隈川流域の26自治体については、オブザーバーとして参加をお願いしました。

日程：基調講演／「これからの川づくりについて」……建設省河川局長 松田 芳夫
記念講演／「流れてこそ 川」……見城 美枝子さん（前河川審議会委員）
分科会／治水・利水分科会及び河川環境保全分科会で討議
全体会／各分科会代表自治体長による会議内容発表
講評／建設省東北地方建設局長 青山 俊樹

共同
声明

- ①あぶくま川と語り合い 川への思いやりの心をはぐくもう
- ②人と人のふれあいの輪をひろげ ふるさとの川を育てよう
- ③あぶくま川の歴史をまなび ふるさとの川とともにくろう

共同声明に基づく事業計画／「交流」を基本とし、下記事業を今後実施することが決定されました。

▷「情報」の交流

- ①「阿武隈川流域マップ」の作成——平成7年度内に作成し、流域市町村内の小・中学校等へ配布します。
- ②「阿武隈川探訪 母なる大河阿武隈川」ビデオ作成——ビデオ作成と流域市町村への配布

▷「人」の交流

- ①上・中・下流の子供たちの交流会——来年度から、上・中・下流の子供たちの交流会を開催します。

▷「文化」の交流

- ①「阿武隈川の歴史と文化」（仮称）の発行——第3回阿武隈川サミットまでに、阿武隈川と流域に暮らした祖先との関りの歴史・文化をまとめた本を作成します。

第3回サミット 平成8年10月19日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」

●第1回阿武隈川サミットで採択した3つの基本理念について、またその具現化のために第2回阿武隈川サミットで採択された流域内の「交流」をさらに押し進めるために、流域自治体がなすべき方途について意見を交換しました。その結果、自治体のみならず、住民相互の理解のもと、流域が一体となって基本理念を実現するために、今すぐできる取り組みを今後も継続していくと同時に、長期的視野に立って流域住民が一丸となって行動していくためのより所となる行動計画づくりが必要であるとの共通確認をし、阿武隈川流域に暮らす人々の「連携」を基本とした共同声明を採択しました。



日程：基調講演／「新たなる自然循環システムとしての河川流域連携」……東京大学教授 松本 聰さん
シンポジウム／「川のほとり 人は生きて」～今、なぜ河川流域圏なのか～
コーディネーター……NHK番組制作局 伊東 律子さん
パネラー……国見町文化財保護審議会長 菊池 利雄さん、立正大学経済学部長 福岡 克也さん
淡水生物研究所長 森下 郁子さん、音楽家 森 ミドリさん、福島市長 吉田 修一
分科会／治水・利水分科会及び河川環境保全分科会で討議
全体会／各分科会代表自治体長による会議内容発表
講評／建設省東北地方建設局長 青山 俊樹

「あぶくまの川の詩」制作発表 小椋 桂コンサート

「あぶくま川の詩(うた)」制作について

(1) 主 旨

ふるさとの川「阿武隈川」は、流域に豊かな恵みをもたらし、私たちの生活と心に深く結びついてきた「母なる川」です。阿武隈川の豊かな自然、そして阿武隈川によって培われた歴史と文化をいかし、新たなふるさとの文化を創造し21世紀へ伝えていくこと、このことは流域に暮らす人々にとってこの上ない喜びであり、今を生きる私たちにとって欠かすことのできない義務であると言えます。

また、阿武隈川の詩を創作することは、将来をになう子供たちが、先人が築いた阿武隈川の歴史と文化にふれ、そして流域に暮らす人々の「ロマン」に巡り会うこととも言えます。

子供たちの心に阿武隈川の「夢」を育み、ふるさとの川の「未来」を夢見る豊かな感性を育てるとともに、流域に暮らすすべての人々の心を一つにしていくために制作するものです。

(2) 経 緯

第2回サミットにおいては、第1回サミットの共同声明をいかに具現化していくか、その方向性を2つの分科会で各市町村長が意見交換しました。

最終的には源流から最下流まで多様な姿を見せる阿武隈川についての共通の認識を深め、流域に暮らす人々がお互いに理解することが、流域が一体となって基本理念を実現するための原点であることが確認され、そのため私たちが阿武隈川を「ふるさとの川」として次の世代に伝えていくため、流域に暮らす約140万人共通の心のよりどころとなる「歌」をつくることが提唱されました。

第4回サミット 平成9年10月2日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」

●これまでは、主に行政側での課題と問題点が基本的に認識されてきましたが、このサミットは、上・中・下流に暮らす住民の阿武隈川について、考え方を共通理解しながら、行政と流域住民が連携をもってなすべきことは何かを確認し、今後における実践活動をしていくために3分科会に別れ意見交換を行いました。その結果、緑や生物などの自然環境の保全と創造、産業や文化の育成といった社会・教育活動、道や公園と一体となった豊かな地域づくりなどあらゆる事象において、川が重要な構成であるということを確認し、流域に暮らす人々がより一層連携を強めて行動していくことを確認しました。これに基づき、自治体と住民が相互に連携と交流を深め、阿武隈川を基軸とした地域づくりに「流域一丸」となって取り組んでいくことを基本とした共同声明を採択しました。

日程：記念講演「地球に優しい暮らし方」……イーデス・ハンソンさん

河川環境—私の主張（中学生）／優秀作品表彰及び発表

分科会／文化交流、全域活動、住民啓発の3分科会で討議

全体会／各分科会代表自治体長による会議内容発表、阿武隈川サイク・リンク行動計画決議

講評／建設省東北地方建設局長 青山 俊樹

その他／合唱……コーラスもとみや混声合唱団



共同
声明

- ①情報の交流で 文化を見だし 川の良さを大切さを知ろう
- ②あぶくま川を軸に 道や緑と調和した 流域づくりを進めよう
- ③清らかな流れを守りつつ みんなの力で 楽しい川をつくろう

共同声明に基づく事業計画／①阿武隈川流域情報誌の作成

②仮称「阿武隈川流域住民憲章」の制定とキャラクターの制作

③仮称「地域クリーン活動員育成計画」の検討

第5回サミット 平成10年10月27日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

●このサミットでは、福島県南部から栃木県北部を中心に平成10年8月末から降りはじめた観測史上まれに見る集中豪雨により、特に阿武隈川の無堤部のいたる所で氾濫し、流域にも甚大な被害をもたらしたことから、今後の治水対策と流域の安全について、公開討議を行いました。その結果、自然の猛威を知らされた今回、大きな被害を受けた地区を中心に堤防などの整備と併せ、被害を最小限に食い止めるためのソフト面からの対策や構造的に水害に強いまちづくりを推進していくことが重要であると確認しました。これに基づき、国・県との連携のもと、治水対策と流域の安全について流域が一体となって推進するために、専門的な組織づくりを図ると同時に、自治体と住民が一体となった対策づくりを基調とした共同声明を採択しました。



日程：記念講演「河川舟運と地域交流」……日本大学理工学部教授 三浦 裕二さん

水害発生状況報告

討議／29市町村長による公開討議……テーマ「住民の安全対策と災害時の流域連携」

全体会／「阿武隈川との共生憲章」の決議、共同声明決議

講評／建設省東北地方建設局河川部長 山根 昭

その他／ふるさとの川整備計画紹介……鳥取市・旧袋川、新十津川町・徳富川

キャラクターデザイン入賞者表彰及びマスコット発表

マーチングバンド演奏……福島市立清水小学校

共同
声明

- ①安全な川づくりのため 水防対策の組織をつくろう
- ②住民の安全確保のため 水害に強いまちをつくろう
- ③災害時は相互協力により 流域市町村の連携を図ろう

共同声明に基づく事業計画／①仮称水防対策専門部会の設置

②仮称「水害に備えて—住民版」の作成

第6回サミット 平成11年10月20日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」

●第5回サミットで決議された「阿武隈川との共生憲章」具現化に向けて「人や動植物にやさしい 河川環境づくり」「流域みんなの力で 川をきれいに」について意見交換をしました。建設省の阿武隈川大改修事業でも、環境に配慮した工法を取り入れ、工事にかかる前よりも自然が豊かになったと言われるような川づくりを目指しています。各自自治体でも、川とのつき合い方や思いやりの心を先人達の暮らしから学び、次の世代の子供達に川の良さ、大切さを教えていかなければならないことを再認識し、積極的に取り組んで行くことを確認しました。

日程：記念講演「川と縄文人の暮らし」……文化庁主任文化財調査官 岡村 道雄さん

阿武隈川マスコット愛称発表・表彰

討議／29市町村長による公開討議……テーマ「阿武隈川と共に生きよう」

全体会／総括発言 実行委員長 福島市長 吉田 修一

講評／建設省東北地方建設局河川部長 山根 昭



第7回サミット 平成12年11月7日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「母なる川、阿武隈川との共生をめざして」

●「阿武隈川共生憲章」の理念のもと、阿武隈川水系55市町村が、「阿武隈川流域2000年宣言」を発表し、21世紀に向けて流域住民の共通の財産である阿武隈川を保全していくため、行政、住民がどのような役割を担い、行動していくかを確認しました。また、阿武隈川水質マップ、サイクリングロードマップの作成と水防関連情報の集約をし、各市町村に配布しました。



日程：アトラクション／「阿武隈川悠久の流れ」ほか……和紙の里和雅美太鼓（安達町）
流域活動紹介／阿武隈川源流の里を愛する会（西郷村）、Eポート子供交流会（七ヶ宿町）
講話／「阿武隈川の現状」……建設省福島工事事務所長 大西 亘
流域2000年宣言／流域自治体長
講評／建設省東北地方建設局河川部長 藤野 忠

阿武隈川流域2000年宣言

基本方針

- ①「清らかな阿武隈川は流域住民の誇り」との意識を持ち、水質を改善するためのさらなる努力を続けていきます。
- ②「阿武隈川は流域住民の命の源」との意識を持ち、常に安全でおいしい水が飲めるよう努力していきます。
- ③「流域住民として過去の被害を忘れない」との意識を持ち、水害被害の軽減を河川・沿川だけでなく流域全体の観点で考えていきます。
- ④「流域住民と阿武隈川の緊密な関係が重要」との意識を持ち、阿武隈川をまちの景観の重要な要素として考えていきます。
- ⑤「阿武隈川は流域住民で共有すべき貴重な自然資源」との意識を持ち、阿武隈川が持つ自然価値を大切に守っていきます。

第8回サミット 平成13年10月25日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「東北直轄11河川 水質ワースト1からの脱出」

●国土交通省発表データによりワースト1となった阿武隈川の水質を改善するための対策について議論しました。理念から行動へとの討議のなかで、①河川の現状認識と人材育成を目的とした事業を行う、②流域一体となった活動を行う、③日常的な生活排水対策事業に取り組むことを行動決議しました。（コーディネーター：福島大学経済学部教授 山川 充夫）



講話／「ヨーロッパでの河とまちの経験」……日本銀行福島支店長 安永 隆則さん
活動報告／河川クリーンアップ作戦（亘理町）、リバーズスクール（東和町）、源流の里づくり（西郷村）
その他／阿武隈川サミット公式ホームページ開設
講評／建設省東北地方整備局河川部長 江藤 隆

第9回サミット 平成14年10月29日

Abukuma-gawa
summit
history

【討議内容】

テーマ「東北直轄11河川 水質ワースト1からの脱出」
サブテーマ～治水・利水・環境保全の流域連携～

●昨年度に引き続き、ワースト1となった阿武隈川の水質改善をメインテーマとして、「流域連携による水質浄化」、「流域連携による治水対策・出水状況報告」、「流域連携の新たな展開」の三部構成で討議しました。そして、①流域市町村で水質浄化の更なる推進を図る、②流域市町村で総合的な治水対策に取り組む、③流域住民との協働により事業の推進を図る、以上の3つを行動決議しました。（コーディネーター：福島大学経済学部教授 山川 充夫）



内容：活動報告／「阿武隈川河口クリーンアップ作戦に参加して」……渡利水辺の楽校維持管理協議会会長 丹治 義勝さん
ビデオ報告……「阿武隈川源流探検」
講評／建設省東北地方整備局河川部長 江藤 隆

